



国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No.274

2022.7▶8

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

発行日 2022 年 7 月 1 日
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

インタビュー 卯田 宗平 先生（コレクション展示プロジェクト・リーダー）

現代中国の鵜飼を記録した 写真・映像展。

◆コレクション展示「現代中国を、カワウと生きる—鵜飼い・漁師たちの技」◆会期：2022年8月2日（火）まで



— 展示について教えてください。

この展示は、国立民族学博物館が所蔵する鵜飼船や、私が中国各地で撮影した鵜飼にかかわる写真、映像を公開することでカワウと生きる漁師たちの技を紹介するものです。鵜飼とは鵜を利用して魚を捕る漁法です。このようにいうと、鵜飼という漁法は非常にシンプルです。字数にすると一〇字ほどで説明できます。ただ鵜飼をよく見ると、じつにさまざまな疑問がでてきます。たとえば、なぜ鵜は逃げないのか、何を捕っているのか、どのような漁具を使うのか、生業として成りたつのか、などです。こうした疑問を解くことは、鵜飼の技術や知識だけでなく、中国の多様な自然環境や淡水魚の食文化、動物利用の特徴などを知ることにもつながります。今回は、鵜飼を切り口に隣国への理解を深めるといった意図もあります。

とくに、展示では私が撮影した写真



私に二〇二二年に出版した『鵜と人間—日本と中国、北マケドニアの鵜飼をめぐる鳥類民俗学』をもとに構成しています。この本では、日本と中国、そして東欧に位置

紹介しています。地味ですが、多くの写真や映像は本邦初公開です。

や映像のなかで中国の鵜飼の特徴づけるものを選びました。中国における鵜飼の特徴とは、地域による技術の多様さとカワウの人工繁殖、生業としての漁法です。本展示では、このような特徴を踏まえながら写真や映像、標本資料を「中国各地でみられる鵜飼」「持ち運びが便利な双胴船」「カワウを繁殖させる技術」「カワウを利用した漁の技術」という四つのテーマに分けて



船の止まり木に20羽ほど乗せて出漁する漁師たち。カワウが逃げていくことはない。2006年9月、山東省微山湖

アーカイブズ動画公開しました！

第 523 回友の会講演会

日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展「邂逅する写真たち—モンゴルの100年前と今」関連

モンゴルとSDGs

4月2日（土）に国立民族学博物館インテリジェントホール（講堂）にて開催された第523回 国立民族学博物館友の会講演会「モンゴルとSDGs」の模様をアーカイブズ動画として公開しました。

環境問題にとどまらず、グローバルな時代を生きる私たちの行末にまで話題が及んだ本講演会を、ぜひご覧ください。

友の会ホームページ：<https://www.senri-f.or.jp/523tomo/>

話者

山極 壽一

（総合地球環境学研究所所長）

小長谷 有紀

（民博客員教員、日本学術振興会監事）





川面に船を浮かべ、左右の小船に片足ずつまいて乗り込む。横方向の安定性がよい。2009年12月、湖北省荊州市

する北マケドニアの鵜飼を取りあげ、各国の技術や鵜の生態、食文化を調べたあと、より普遍的な動物利用の論理や野生動物の家畜化についてまとめました。この本は鵜飼研究のひとつの集大成であります、学術書ですので値段が高く、写真も白黒



『鵜と人間——日本と中国、北マケドニアの鵜飼をめぐる鳥類民俗学』卯田宗平 著（東京大学出版会）



上：都市部を流れる大きな河川で操業する漁師たち。2006年10月、江西省南昌市

下：刷り込み作業。給餌のとき、目が開いたばかりのヒナに人間を確実に見せる。2007年4月、江蘇省興化市

記事内の写真はすべて、卯田宗平撮影

技術の地域性とカワウの繁殖技術でしょうか。中国は国土面積が日本の二五倍以上もあるため、ひとつで鵜飼といっても地域によって技術に大きな違いがみられます。とくに、漁師たちは対岸が見えないほど広い河川、迷路のように入り組んだ小運河、流れが速い溪流などで漁をおこないます。彼らはそうした漁場の環境にあわせて船の長さや幅、使用するカワウの数、刺し網などに工夫を加えます。この結果、地域によって漁の技術にバリエーションが生じます。

— 展示の見どころを教えてください。 —
小さい。もちろん、映像をのせることもできず、鵜飼い船を見せることもできません。こうしたなか、一般の方々にも研究成果を分かりやすいかたちで届けたいと思い、今回の展示を企画しました。

カワウの人工繁殖も特徴的です。世界中でも中国でしかおこなわれていません。日本の鵜飼では昔から野生個体を捕獲して利用してきたため人工繁殖の技術はありません。今回の展示では、カワウの巣造りから交配、産卵、孵化、インプリンティング（刷り込み）、若鳥のトレーニングにいたる写真と映像を公開しています。なんともマニアックな情報ですが、そこから中国で二〇〇〇年以上も続けられてきた鵜飼の根本技術を理解していただけると思います。このほか、中国で生業としての鵜飼がみられるのは、各地で淡水魚を食べる文化が広く深く根づいているからです。淡水魚の食文化が鵜飼を支えているのですが、この点も日本と大きく異なります。いずれにしても、本展示を通して、鵜飼という特異的な漁法が成りたつ背景としての中国の食文化や自然環境などを知っていただければ幸いです。（聞き手・事務局）

巡回展のご案内

国立民族学博物館コレクション

ビーズ——つなぐ・かざる・みせる

会 期：2022年7月30日(土)～9月11日(日)

会 場：石川県七尾美術館

貝殻や木の実や石やガラスなどさまざまな素材から作られるビーズ。今から12万年前に誕生して現在にいたるまで、人びとの美への希求や祈り、人と人とのつながりを示すものとして親しまれてきました。みんなの所蔵するビーズ資料に加え、開催地である能登七尾出身の絵師・長谷川等伯の作品の中からビーズの装飾品が描かれた仏画の複製画や、能登の出土資料のほか、ビーズを身につけた神像も展示されます。約200点に及ぶビーズの世界を、ぜひご堪能ください。

石川県七尾美術館

<https://nanao-art-museum.jp>

〒926-0855 石川県七尾市小丸山台1-1

TEL.0767-53-1500 FAX.0767-53-6262



人像(ガラスビーズ製) ナイジェリア



関連イベント

●ギャラリートーク

講師 池谷 和信(民博教授)

日時 7月30日(土) ①10:45～、②14:00～
9月11日(日) ③14:00～(約45分)

●ワークショップ

フィールドワークで発見!ビーズのひみつ

講師 池谷 和信(民博教授)

日時 8月13日(土) ①14:00～15:30
8月14日(日) ②10:30～12:00、③14:00～15:30

(小学3年生～中学3年生対象、各回12名、無料、要事前申込)

※③は対象年齢外の方のご参加も歓迎します。

申込方法 7月13日(水) 9時～電話受付

夏休みの自由研究に!ビーズ研究者・池谷先生と一緒に展示場を見学しながら、ビーズのひみつを探ります。

●特別セミナー

ビーズに込められたメッセージ

—人と仏をかざる—

話者 河村 好光(石川考古学研究会副会長)

長岡 龍作(東北大学教授)、池谷 和信(民博教授)

日時 8月27日(土) 13:30～15:30(定員先着30名、無料)

※ギャラリートーク、ワークショップは高校生以上要観覧券
※お申し込み、イベントに関するお問合せは七尾美術館まで

千里文化財団 2021年度事業概要報告

国立民族学博物館友の会は千里文化財団が運営しております

千里文化財団の活動は、友の会会員のみなさまの会費によって支えられています。

当財団は、文化人類学・民族学等の振興を図るため、国立民族学博物館（みんぱく）をはじめ、関係諸機関と連携し、その普及に努めています。人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、地域社会に根ざしつつ、ひろく国際社会に貢献することを目的とし各種事業をおこなっています。

2020年度に続き新型コロナウイルスの蔓延により、みんぱくは2021年4月25日(日)から6月22日(火)まで臨時休館しました。再開後も感染症対策を徹底しながら博物館活動を継続しています。友の会では感染予防を踏まえつつ、ご遠方の方にも博物館を楽しんでいただけるよう、オンライン配信等に取り組んでまいりました。

また、千里文化財団の新規事業として、2025年の万博開催に向けて70年万博の文化的遺産を繋いでゆくことを目的に、日本万国博覧会記念公園シンポジウム2021「人類・いのち・万博——1970から2025へ向けて」を開催しました。本シンポジウムは2025年まで継続して実施する予定です。

当財団は2021年4月より公益財団法人に移行し、寄附金優遇税制措置の対象となる「特定公益増進法人」に認定され、2021年9月10日（金）より税制控除の対象法人となりました。これにより、維持会員及び正会員のみなさまの会費は寄附金同様に税制優遇の対象となりました。

2022年度も一層活動の充実に努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



日本万国博覧会記念公園シンポジウム2021
「人類・いのち・万博——1970から2025に向けて」
のフライヤー

文化人類学・民族学の振興

みんぱくの協力のもと、学術情報を広く一般に提供する各種事業を企画・実施しました。

- ・「梅棹忠夫アーカイブズ資料の整理及びそれに基づく基礎データの整備並びに支援業務」事業への協力、研究活動の支援
※上記の一部データはweb上で公開されています。 <http://nmearch.minpaku.ac.jp/umesao-archives/index.html>
- ・家庭学術雑誌『季刊民族学』176号～179号の編集、発行
- ・講演会を大阪で12回、東京で1回実施(会場126名、オンライン774名/延べ人数 ※一部はオンライン配信のみで開催)

みんぱくの利用促進支援

より多くの方にみんぱくにご来館いただき、活用していただくことを目的とした各種事業を実施しました。

- ・みんぱく友の会、みんぱくキャンパスメンバーズの運営：
市民による博物館への支援と積極的な活用を目的とし、開館当初よりみんぱく友の会を運営
 - ・みんぱくの広報誌『月刊みんぱく』の作成支援等(受託事業)
 - ・ミュージアム・ショップの運営(みんぱく広報、並びに教材制作及び頒布事業)
 - ・みんぱくの特別展図録『日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展「邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今」』の編集協力(受託事業)
 - ・オリジナルカレンダー(企画展「躍動するインド世界の布」関連)の制作
 - ・来館者の学習支援事業(受託事業)：展示案内学習支援等業務、研究資料整理・情報化及び利用管理業務、民族学資料共同利用窓口業務 ほか
- その他、特別展及び企画展の各種広報活動、館外催しへの協力事業

博物館活動支援／地域活性化、文化振興協力事業

みんぱくに集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、博物館を支援する活動を実施するとともに、各種文化活動に協力しました。

- ・2025年大阪・関西万博に向けた事業(みんぱくならびに日本万国博覧会記念公園との連携事業)の実施
名称：「日本万国博覧会記念公園シンポジウム2021『人類・いのち・万博——1970から2025に向けて』」
開催日：2021年11月23日(火・祝) 参加人数：276名(延べ人数) 会場：国立民族学博物館(オンライン配信の併用)
- ・各地の博物館等の施設を活用するみんぱく巡回展の開催
名称：「ピース アイヌモシリから世界へ」
会期：2021年10月2日(土)～12月5日(日) 入場者数：21,682名(延べ人数) 会場：国立アイヌ民族博物館
- ・各地の博物館展示案内等の編集業務：滋賀県立琵琶湖博物館展示案内『古代湖とともに生きる』の編集協力を受託(日本生命財団)
- ・第30回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務を受託(松下幸之助記念志財団)

その他、「日本展示学会」の事務業務、「文化財保存修復学会」の事業開催運営業務、同人雑誌『千里眼』の編集及び発行

国立民族学博物館友の会 会員数

2022年3月末日時点の会費納入件数
※登録件数ではありません

維持会員	正会員 (家族会員を含む)	ミュージアム会員	みんぱく フリーパス	キャンパス メンバーズ
92口 法人44社、個人3名	1,426件	145件	58件	6校2学部

館内催し 会員先行予約のご案内

みんぱくゼミナール、みんぱく映画会には維持会員、正会員、家族会員のみなさまを対象に先行予約がございます。

会員先行予約は該当期間中に事務局までご連絡ください。会員先行予約が定員に達した場合は、一般受付をご利用ください。

催しの詳細、オンライン予約については、みんぱくホームページ内の各催しのご案内をご確認ください。

館内催しの詳細はこちら！ <https://www.minpaku.ac.jp/event/>



みんぱくゼミナール

第523回

【コレクション展示「現代中国を、カワウと生きる——鵜飼い漁師たちの技」関連】

鵜と人間

——ウミウ産卵の謎解きから

講師 卯田 宗平(民博准教授)

日時 7月16日(土)13:30~15:00(開場13:00)

会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員200名)

※オンライン(ライブ配信)はありません。

申込期間

■友の会電話先行受付(定員40名)

対象：維持会員、正会員、家族会員

※受付期間は終了しました。

■一般受付

・オンライン予約

期間：7月13日(水)まで

・当日参加受付(定員40名)

第524回

ソースコミュニティを敬う博物館活動

講師 伊藤 敦規(民博准教授)

日時 8月20日(土)13:30~15:00(開場13:00)

会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員200名)

※オンライン(ライブ配信)はありません。

申込期間

■友の会電話先行受付(定員40名)

対象：維持会員、正会員、家族会員

期間：7月11日(月)~15日(金)

■一般受付

・オンライン予約

期間：7月19日(火)~8月17日(水)

・当日参加受付(定員40名)

第525回

【企画展「海のくらしアート展——モノからみる東南アジアとオセアニア」関連】

モノからみる海のある暮らし

——東南アジア・オセアニアの漁具・舟具・装飾品

講師 小野 林太郎(民博准教授)

日時 9月17日(土)13:30~15:00(開場13:00)

会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員200名)

※オンライン(ライブ配信)はありません。

申込期間

■友の会電話先行受付(定員40名)

対象：維持会員、正会員、家族会員

期間：8月15日(月)~19日(金)

■一般受付

・オンライン予約

期間：8月22日(月)~9月14日(水)

・当日参加受付(定員40名)

みんぱく映画会

みんぱく映画会・第52回ワールドシネマ

ムンナ兄貴とガンディー

解説 菅瀬 晶子(民博准教授)

日時 9月24日(土)13:30~16:30(開場13:00)

会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員200名)

※オンライン(ライブ配信)はありません。

申込期間

■友の会電話先行受付(定員40名)

対象：維持会員、正会員、家族会員

期間：8月15日(月)~19日(金)

■一般受付

オンライン・電話・メール予約

期間：8月22日(月)~9月16日(金)

みんぱく映画会

【特別展「Homō loquēns「しゃべるヒト」——ことばの不思議を科学する」関連】

シニエ

——手話を話す

総合司会 吉岡 乾(民博准教授)

司会 相良 啓子(人間文化研究機構・民博)

解説 Sara Lanesman(イスラエル手話講師)、森田 明(明晴学園教頭)

日時 10月8日(土)13:30~15:50(開場13:00)

会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員200名)

※オンライン(ライブ配信)はありません。

申込期間

■友の会電話先行受付(定員40名)

対象：維持会員、正会員、家族会員

期間：8月29日(月)~9月2日(金)

■一般受付

オンライン・電話・メール予約

期間：9月5日(月)~30日(金)

申込方法

◆友の会電話先行受付

申込先着順/本人を含む2名まで

【申込先】千里文化財団友の会事務局

電話 06-6877-8893 (9時~17時、土日祝を除く)

◆一般受付

申込先着順/本人を含む2名まで

みんぱくホームページ内のイベント予約サイトよりお申し込みください。
オンライン以外の受付方法については、みんぱくホームページならびに
フライヤーをご確認ください。

いずれも事前申込制(先着順)。参加無料。ただしみんぱく映画会は、要会員証または
展示観覧券。

セミナー・映画会にご参加の方には入場整理券を当日11時から本館2階みんぱく
インテリジェントホール(講堂)前にて配布します。

予告 //

秋の特別展・企画展

特別展 Homō loquēns 「しゃべるヒト」

——ことばの不思議を科学する

2022年9月1日(木)

~11月23日(水・祝)

身近にありすぎてほとんど振り返ることのない「コトバ」をテーマに、言語学のみならず、文化人類学、工学系、教育系、脳科学、認知心理学等の50名を超える国内外の研究者が協力して、その不思議をおみせします！

企画展 海のくらしアート展

——モノからみる東南アジアとオセアニア

2022年9月8日(木)~12月13日(火)

東南アジアやオセアニアの島や沿岸部に暮らしてきた人びとの漁具や船具、儀礼具や装飾品にみられる海との関わりを、そのアート(美術)性にも注目しつつ紹介します。



模型画像提供：荒井隆行



神像付き椅子 パプアニューギニア

各展示に関する詳細は
みんぱくホームページ
をご確認ください。



7・8月のイベントスケジュール

■コレクション展示

8/2(火)まで

「現代中国を、カワウと生きる

——鵜飼い漁師たちの技」

●友の会講演会【オンラインは要事前申込】

7/2(土)平野智佳子(※)、8/6(土)丹羽典生(※)

●みんなくゼミナール【要事前申込】

7/16(土)卯田宗平、8/20(土)伊藤敦規

●みんなくウィークエンド・サロン

7/24(日)岸上伸啓、7/31(日)奈良雅史

8/28(日)伊藤敦規

●みんなく映画会

7/9(土)「はじまりへの旅」＜受付終了＞

●その他の催し

7/30(土)

みんなく夏休みこどもワークショップ

「フィールドワークに挑戦！

——資料をまもる、博物館のしごと」

【要事前申込】

【館外での催し】

■巡回展

7/30(土)～9/11(日)

国立民族学博物館コレクション

「ビーズ——つなぐ・かざる・みせる」

会場：石川県七尾美術館

●催し

8/9(火)

連続講座みんなく×SpringX 超学校

「コトバとつきあう」シリーズ 全4回

第1回「ヒトとコトバと展示編」

会場：ナレッジキャピタル(★)

◆都合によりスケジュールを変更する場合があります。

◆予約の必要な催し、すでに満席になっている催しがございます。また、会場とオンライン配信の併用(※印)、もしくはオンライン配信のみ(★印)で実施する催しもございます。詳細はみんなくならびに友の会のホームページをご確認ください。

◆イベントの参加には必ず会員証をご持参ください。

ぼくのみんなく日記

画・中川洋典



友の会講演会のご案内

7月より、会場参加に限り、友の会会員の方は事前予約が不要になりました。当日は会場受付にて会員証をご提示ください。

9月の友の会講演会は特別展関連の話題です。特別展関連の講演会はみんなくフリーパス会員の方もご参加いただけます。

以下の会員種別のみなさまが、無料聴講の対象となります。

維持会員、正会員、家族会員、ミュージアム会員、キャンパスメンバーズ

※9月の講演会はみんなくフリーパス会員の方も対象。

※会場での聴講は、会員以外の方もご参加いただけます(500円)。

オンラインでの参加にはご予約が必要です。

友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

第526回

アボリジニの「酒狩り」

講 師：平野 智佳子(民博助教)

日 時：7月2日(土)13:30～15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加

②オンライン(ライブ配信)での参加

酒は楽しい娯楽ですが、トラブルの種にもなります。アボリジニ社会では酒が好まれる一方で、「酒は毒」という語りがきかれます。こうした状況下で人びとはどのように酒を調達しているのでしょうか？ 本講演では、オーストラリアの中央砂漠で狩猟の知恵を絞りながら酒を採求するアボリジニの「酒狩り」に迫ります。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/526tomo/>



第527回

探検、博物学、強制収容

——朝枝利男とアメリカ

講 師：丹羽 典生(民博教授)

日 時：8月6日(土)13:30～15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加

②オンライン(ライブ配信)での参加

第二次世界大戦に際して日系アメリカ人が強制収容されてから80年がたちます。探検家・朝枝利男も収容所で過ごした経験をもつひとりでした。本講演では民博のフォーラム型情報ミュージアムプロジェクトにおいて精査を続けてきた朝枝利男コレクションを取り上げ、朝枝のまなざしをととしたアメリカでの体験を紹介します。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/527tomo/>



第528回

みんなくフリーパス会員の方も無料でご参加いただけます！

【特別展「Homō loquēns『しゃべるヒト』——ことばの不思議を科学する」関連】

伝わらないことば

講 師：吉岡 乾(民博准教授)

日 時：9月3日(土)13:30～15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加

②オンライン(ライブ配信)での参加

言語は意思伝達に用いられる、ヒト特有の道具です。動物の意思疎通ツールと異なり、言語の特性のひとつに、無限の表現を作り出せるし理解もできる、「創造性」があります。言語によって表現できない考え、伝えられないメッセージは、原則的にありません。それなのに、世の中に伝わらないことばが間々あるのは何故なのでしょう。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/528tomo/>



2022年7月31日 発行予定

友の会機関誌『季刊民族学』181号

特集 沖縄と出会う(仮)

今年は沖縄が復帰して50年という節目の年。沖縄と日本、沖縄と世界の複雑な関係性は、本土にはない、重層的な文化を醸成してきました。本特集では、エイサーや琉球紅型といった伝統芸能・文化、人びとの生活や信仰、移民、米軍基地などをとりあげ、沖縄の文化や社会を多面的に見つめ直すなかで「沖縄のいま」をさぐります。

特集執筆者

岸 政彦、久万田 晋、児玉 絵里子、比嘉 利麻、平井 芽阿里、藤本 透子、松井 健、山内 健治

連載など

・連載 モノから見た宗教の世界(第9回)・・・中川 千草
・シリーズ 焼畑を再考する
「焼畑は環境破壊か——佐々木高明の研究とその後」
・・・佐藤 廉也、米家 泰作、池谷 和信(鼎談)

企画展「焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」

シリーズ「焼畑を再考する」として、関連イベントの様子を『季刊民族学』でお伝えします！

盛況のうちに閉幕を迎えた企画展「焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」。展示の関連イベントとして、5月7日(土)に友の会講演会を開催しました。本講演を含む、会期中の関連イベント3本の様子を『季刊民族学』に連載いたします。各号特集とあわせてお楽しみください。

181号(7月末日発行)

みんぱくゼミナール

焼畑は環境破壊か——佐々木高明の研究とその後

話者 佐藤 廉也(大阪大学教授)、米家 泰作(京都大学教授)、池谷 和信(民博教授)
※2022年3月19日(土)に開催。

182号(11月末日発行)

みんぱく映画会

焼畑から見た日本の文化 ※上映作品「椿山——焼畑に生きる」

話者 野本 寛一(近畿大学名誉教授)
川野 和昭(元鹿児島県歴史・美術センター黎明館学芸課長)、池谷 和信
※2022年4月30日(土)に開催。

183号(2023年1月末日発行)

友の会講演会

佐々木高明を語る——研究とその人物像

話者 ヨーゼフ・クライナー(ボン大学名誉教授)、宇野 文男(元福井大学教授)、池谷 和信
※2022年5月7日(土)に開催。

『季刊民族学』はミュージアム・ショップでご購入いただけます。バックナンバーの情報は左記QRコード(通販サイト)よりご確認ください。



会員 2,200円(税込)、一般 2,750円(税込)

登録のお手続きを
もっとスムーズに！

au PAYと自動引き落としのご案内

友の会カウンターで au PAYが 利用できるようになりました！

友の会カウンターでのお手続きには、現金のほかクレジットカードをご利用いただけますが、このたび au PAYでのQRコード決済が加わりました。au PAYのご利用には「au PAY アプリ」のダウンロードが必要です。

自動引き落としもおすすめです！

有効期限の2カ月前に自動で年会費が引き落とされる仕組みです。ご希望の方には、事務局より自動引き落としの申込書類を郵送いたします。なお引き落としのご登録には、お届け印や口座番号の確認審査等のため2カ月ほど要しますので、あらかじめご了承ください。

みんぱく友の会 提携館のご紹介

会員サービスのひとつに「提携館割引」があります。12の提携館でみんぱく友の会の会員証をご提示いただくと、入館料が割引になります。ぜひご利用ください。
(提携館以外が主催・共催の場合、割引対象外になる場合があります)

京都国立博物館

120年余の歴史をもつ博物館。日本や東洋などの有形文化財を収蔵・調査・研究し、ご来館のみならず鑑賞いただけます。会員証のご提示で名品ギャラリー(平常展示)および特別展が団体料金または割引料金になります。

特別展

「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺 ——真言密教と南朝の遺産——」

会期:2022年7月30日(土)～9月11日(日)

※休館日、観覧料等の詳細は、京都国立博物館のホームページをご確認ください。

京都国立博物館
<https://www.kyohaku.go.jp/>



本紙掲載の情報は、2022年6月21日時点で決定している内容です。新型コロナウイルス感染症の影響等により急遽予定を変更する可能性があります。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。
国立民族学博物館友の会
公益財団法人 千里文化財団

〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10-1(国立民族学博物館3階)
電話:06-6877-8893(平日9:00~17:00)
FAX:06-6878-3716
e-mail:minpakutomo@senri-f.or.jp

国立民族学博物館 最新情報



ホームページ
<https://www.minpaku.ac.jp>



Facebook
<https://www.facebook.com/MINPAKU.official>

国立民族学博物館友の会 最新情報



ホームページ
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



Facebook
<https://www.facebook.com/minpakutomo/>